



## 【お知らせ】

新型コロナウイルスによる感染症予防のため、人権センターが毎月定例で行っている、

### ■ふれあい人権講座

### ■人権相談所・行政相談所

の開催は当面、延期・中止とさせていただきます。また「みんなの人権・小地域懇談会」等の各種研修会についても、今後の状況を見ながら実施の判断をしていきます。

人権や行政に関する相談ごとがありましたら、直接、

### 日南町人権センター

(☎820076) までご連絡

してください。

## コラム

### 「感染症と人権」

新型肺炎の流行は拡大を続け、世界中で爆発的な流行となりました。この状況下、感染者やその家族、感染者の出た国の国民に対して、偏見や差別、排除行動が起こっています。当初、欧米諸国では感染が早くに確認された東アジアの人々への偏見・差別が主だったのですが、現在は欧米での感染者数が急増し他地域を逆転しました。次は自国内で、民族や人種、貧富などと絡めた差別が横行しています。歴史的に見ても伝染病や感染症には、絶えずこうした人権侵害につながる現象が伴います。自身の健康や生命に危機感を持つのは当然ですが、防疫のための感染者の隔離など、拡大防止に努めることと、感染者、その家族、発生した国・地域・民族等の属性に対して

根拠もなくヘイト（嫌悪・憎悪）言動を行うこととは、まったく別の問題です。発生源と疑われた国について、民度が低いとか衛生状態が悪いから、といった論評にしても、仮にそうだったとしても、貧困という問題や社会基盤の充実度など、根本的な課題がその背景にあるのかもしれない。偏見を持って見下すような思考はどうかと思います。

かつてのハンセン病患者の虐待的な強制隔離、HIVによるAIDS（エイズ）患者への極端な偏見と差別などを現在の眼で振り返ると、今は誰もが誤った言動だったと考えています。しかし、歴史は繰り返します。新たな感染症の発生そのものは、いつ起こってもおかしくなく、決め手となる対策のない期間が生まれる事は、保健・衛生・医療分野では常識ですが、喉元を過ぎた時、私達一般市民はすつ

かり意識の外へ置いてしまいます。今回もまた、偏見と差別が起こっています。感染者を攻撃する情報が発信され拡散しています。明日は自身が感染しているかもしれないのに、です。歴史から学ぶことは、ここでも大切です。過去の経験を振り返り、今回起こっていることを冷静に見つめ、教訓として次回は正すことを意識できたなら、と思います。デマや悪意ある扇情的な情報に流されず、社会的なモラルを失わずに感染拡大予防に努め、感染症の流行が終息に向かっていくことを願っています。



◇R1年度「みんなの人権・小地域懇談会のまとめ」から修整、転載